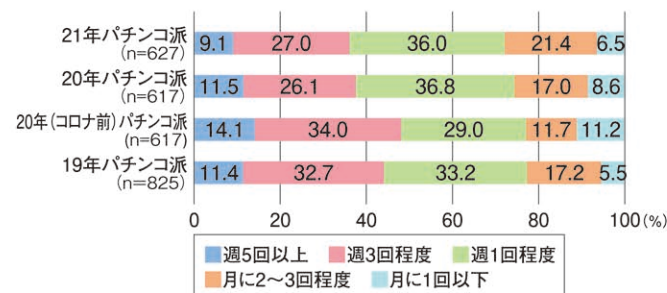


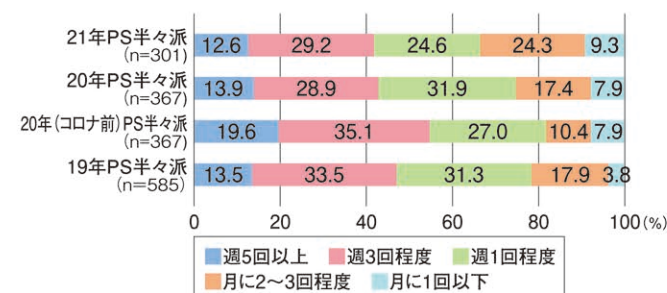
パチンコ派の遊技頻度推移



コロナ禍で遊技頻度維持「月1以下」の割合が減少

パチンコ派はコロナの前と後で「週3回程度」「週5回以上」のプレイヤーの割合が減少。「週1回程度」「月に2~3回程度」の割合が増えた。全体的には2020年のコロナ禍の構成比とほとんど変わっていない。「月1回以下」のライト層の割合が減少した。

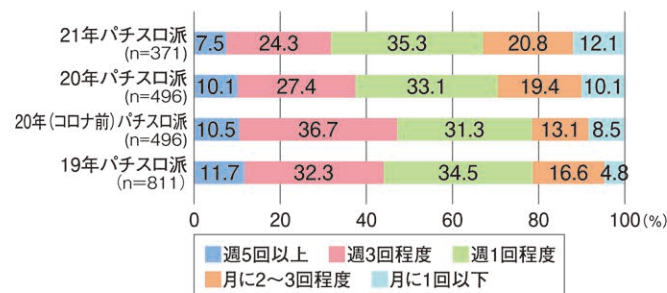
PS半々派の遊技頻度推移



ヘビー層は前回と同程度も「週1ユーザー」が減少

「週3回程度」以上のヘビー層の割合は2020年のコロナ禍以降と変わらない。2020年の調査結果と異なるのが「週1回程度」の割合が大きく減少し、それ以下の頻度（「月に2~3回」「月に1回以下」）の人の割合が増えたことだった。

パチスロ派の遊技頻度推移



減少し続ける高頻度層 6号機の盛り返しに期待

パチスロ派は構成割合も減り、さらに遊技頻度も減少する結果となった。2020年の調査結果と比較してもヘビー層の減少が顕著だった。他の派が2020年コロナ禍のヘビー層割合を維持しているのをもて、パチスロの苦戦ぶりが際立つ結果となった。

このアンケートは例年、8月〜9月にかけて実施している。今回は2021年9月6日から9月13日までの1週間、P・WORLDのトップ画面から設問ページへと誘引した。そのため回答者の95.4%がスマートフォンからの回答、残りはPCからだった。Webでのアンケート調査のため、全体的に若年層の回答者比率が高くなる傾向がある。回答者の年齢構成は30代が32.6%、40代が35.3%と30代から49歳までで約7割近くを占める。

基本的な分析では、約1300人のファンを3つに区分した。パチンコのみを遊技する人と主にパチンコを遊技する人を「パチンコ派」、パチンコとパチスロを同等に遊技する人を「PS半々派」、パチスロのみを打つ人を「パチスロ派」とした。

各派の割合は「パチンコ派」が48.3%、「半々派」が23.2%、「パチスロ派」が28.6%。前年と比べて「パチンコ派」が大幅に増えており、「半々派」「パチスロ派」の割合が減った。

遊技予算は各派ともに「1万円〜2万円」が最多だった。「パチンコ派」より「パチスロ派」のほうが遊技予算はやや低い傾向があるが、「パチンコ派」の方が低貸しユーザー比率が高いことを考えると、妥当な結果だと言える。むしろ、過去の結果よりもその差はなくなっており、それはパチスロの低予算化が進んでいることが原因とみられる。

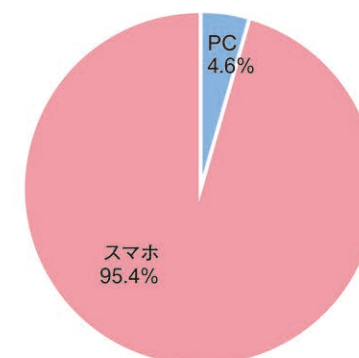
よく行く店舗数は各派ともに3店舗がボリュームゾーン。過去の調査でも「パチンコ派」より「パチスロ派」のほうが数多くの店に行く傾向があったが、そうした「フットワークの軽いプレイヤー」「勝ちを求めて店舗選択をするプレイヤー」が減少しているのかもしれない。

喫煙状況を見ると、喫煙者の割合は各派ともに5割程度だった。「紙巻

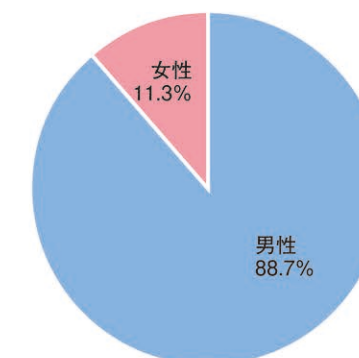
続きは月刊アミューズメントジャパン2月号をご覧ください

回答者属性

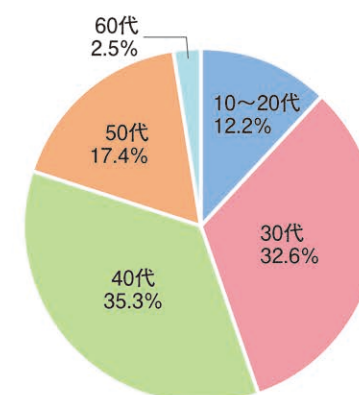
回答端末



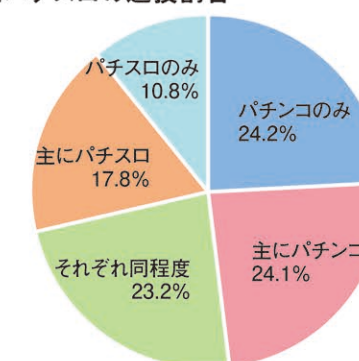
性別



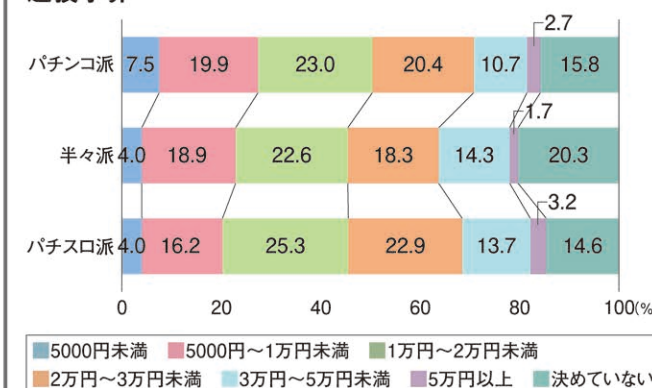
年齢



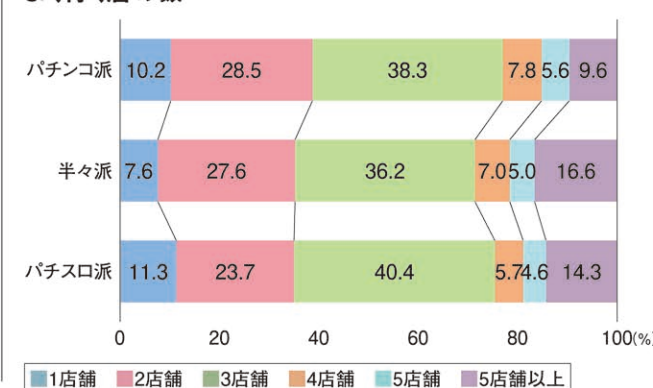
パチンコとパチスロの遊技割合



遊技予算



よく行く店の数



喫煙状況

